

平成29年3月吉日
船橋希望学舎
世田谷区立船橋希望中学校
統括校長 加藤敏久
学校関係者評価委員会事務局

平成28年度 学校関係者評価委員会の報告を受けて 次年度に向けた改善方策

1 「絆を確かに、豊かな人間関係を創る」について

- (1) 生徒と担任による二者面談を計画的に行うとともに、教育相談週間における三者面談の内容を充実させ、生徒一人ひとりの理解を徹底し、個々の特性を生かした指導を推進する。
- (2) 個に応じた指導の内容や方法を学年会、生活指導部会、教育相談部会等で協議、共有し、生徒が担任以外の教員でも相談しやすい体制を構築する。
- (3) 授業と同様に、すべての指導において、教員からの一方向的な指導ではなく、生徒に考えさせることを大切にし、「心に響く指導」を主とする。

2 「キャリア教育の充実」について

- (1) 3年間の系統的かつ継続的なキャリア教育の計画を立案し、実施する。1年生は「キャリア学習ノート」（区教委）等を活用した指導と職業講話、2年生は職場体験と高校訪問授業、上級学校訪問、3年生は上級学校訪問、大学講座、高校の校長先生による面接講座を位置付けて、上級学校への進学から就業までの具体的なキャリアイメージをもたせる。
- (2) 1年生に進路意向調査、2・3年生に進路希望調査を行い、教育相談実施時に活用することで、将来の夢や目標をもたせる。

3 「新たな教育活動の推進と理解」について

- (1) カリキュラム・マネジメントの視点で指導内容を関連付け、「主体的・対話的で深い学び」や少人数等による指導方法の工夫を積極的に進め、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- (2) 「特別の教科 道徳」（道徳科）への移行や、教科及び特別活動と関連付けた道徳教育を推進し、強い意志をもつことや真理を追求することのよさを自覚させる。さらに、体験活動を通して、礼儀、思いやりの心、感謝の念、地域社会に貢献するシチズンシップをはぐくみ、誠実によりよく生きようとする精神を涵養し、学びに向かう力・人間性を育成する。
- (3) 東京都スーパークリエイティブスクールとして、自らの体力についての課題を自覚し、克服に努める意識を高め、そのための場面やプログラムを設定し、体力の向上を図る。

4 「世田谷9年教育『船橋希望学舎』の活動」について

- (1) 学舎合同学校協議会を開催し、小中学校の地域の連携を図るとともに、船橋希望学舎の地域全体として、子どもたちを育てる風土を醸成する。
- (2) 「あいさつキャンペーン」では、地域や保護者と連携するとともに、中学校の生徒会役員や生活委員を中心に小学校の校門に立って交流を行う。
- (3) 世田谷子ども駅伝に学舎として参加し、練習会やレースを通じて、小中学校の連携と地域社会の連携、児童・生徒の体力の向上と一体感の醸成を図る。